

(双葉東小) 学校 学校関係者評価書

令和 7 年 2 月 1 4 日 (金)
(双葉東小学校) 学校関係者評価委員会作成

学校関係者評価委員会 (第 3 回学校運営協議会)

実施日: 令和 7 年 2 月 7 日 (金) 午後 1 4 時 3 0 分 ~ 1 6 時

会 場: 双葉東小学校 家庭科室

参加者: 学校運営協議会委員: 大澤 孝彦・石川 和子・石川 清美
小林 むつみ・五十嵐 雅俊・内藤 浩司
校長: 窪田 正幸・教頭: 花形 健一・主幹教諭: 向山 明見

I 学校側から提案された内容

- ・学校経営方針
- ・学校評価(教職員, 保護者, 児童アンケート)に基づく自己評価書

II 協議された主な内容

各項目における達成状況と改善策

- | | |
|-------------|-------------------|
| 1 全体評価について | 2 学校教育目標・学校経営について |
| 3 学校運営について | 4 学習指導について |
| 5 生徒指導について | 6 地域との連携について |
| 7 学校の特色について | 8 創甲斐教育について |
| 9 まとめについて | |

<学校関係者評価書>

I 全体評価

教職員評価では, いくつかの設問において, 否定的回答(C・D)が若干名あるものの, 全設問における肯定的回答(A・B)の平均が 9 6. 4 % であり, 高い評価である。全教職員による学校教育目標の具現化に向けた取組がなされていると言える。

保護者アンケートでは, 学校の教育活動に関する設問において, 肯定的回答の平均が 8 0. 8 % と高い評価であり, 保護者の学校の教育活動に対する信頼がうかがえる。家庭の教育活動に関する設問において, 肯定的回答の平均は 7 5. 4 % である。

児童アンケートでは, 肯定的回答の平均が 8 8. 9 % と高い評価であり, 児童は伸び伸びと学校生活を送っている様子がうかがえる。

教職員, 児童, 保護者の 3 者の評価は総じて肯定的評価が高く, 学校の教育活動について, 教職員の教育活動, 児童の学習や生活への指導が積極的に行われ, それに対する保護者の信頼が分かる結果となっている。来校時に確認できる校内の様子や児童の態度, 我が子が家庭で語る学校の様子から, 全体として児童が明るく伸び伸びと生活していること, 先生が日々熱意を持って児童への教育に当たられていることが分かり, 学校が楽しい, 授業が楽しいというアンケート結果も実感として理解できる。

保護者に「わからない」と回答する割合が多いものの昨年度との比較で改善傾向の見られる項目もあることを学校側がポイントとして捉えていることに同感である。学校は児童一人一人の多面的な成長のために, 様々な取組をしていることがよく分かった。そうした学校の姿を周知し正しく理解してもらい, 学校教育への支援に繋げるためにも, 地域への学校だより回覧など, 保護者だけでなく地域への情報発信も継続し, また, 保護者への情報発信と情報収集の活発化もさらに進めていくことが必要であると考えます。

P T A 活動に関する項目で, 肯定的評価が低い結果に大きな課題を感じる。保護者も教職員も共に P T A 組織の構成メンバーなので, P T A に関わる人々の意識を高くしていくにはどうすべきか考えたい。

Ⅱ 特 徴

学校教育目標・学校経営についての肯定的回答の割合は、99.5%である。学校教育目標・学校経営について教職員全体の共通理解が図られ、教育活動が行われていると言える。学校運営についての肯定的回答の割合は、96.6%である。教職員それぞれが、チーム双葉東小の一人であると自覚し、協働して学校運営に参画していると言える。学習指導についての肯定的回答の割合は、96.2%である。より良い授業を目指し、教職員一人一人が努力を重ねていると言える。生徒指導についての肯定的回答の割合は、95.3%である。全職員が関係機関とも連携しつつ、情報を共有・共通理解を図りながら指導にあたっており、その成果が児童の落ち着いた生活の雰囲気表れていると言える。地域との連携についての肯定的回答の割合は、91.4%であり、保護者や地域の声に耳を傾け、保護者・地域と連携しながら教育活動が行うよう努めていると言える。学校の特色についての肯定的回答の割合は100%、創甲斐教育についての肯定的回答の割合は96.6%である。教職員全体の共通理解が図られ、教育活動が行われていると言える。大半の項目で、3者の評価の傾向が似ている様子が見て取れるが、一部、心の教育に関する項目や、読書活動に関する項目、規範意識に関する項目で、3者（もしくは2者）の評価結果（教職員の評価が高いが保護者や児童の評価が低くなる）が異なっていた。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

【生活習慣の確立とICTの活用】

- ・家庭での情報機器の使用時間の多さと、睡眠時間や読書時間の少なさは相関関係があるのではないかと。基本的な生活習慣の確立など家庭生活での教育内容は家庭が責任をもって行いたい。同時に、学校では情報機器の活用推進だけでなく、それらの機器との適切な付き合い方が身に付けられるよう指導して欲しい。

【PTA活動】

- ・今年度のふるさと一夜が大勢の保護者ボランティアの協力により成功し、関わって良かったという保護者の多数の声を聞いており、理想的なPTA活動の姿が見られた。組織としてもPTA活動の活性化に努めたいが、更に多くの保護者、教職員の参画が得られるよう、今後もPTA活動の推進に学校からの協力をいただきたい。

【教育活動の周知と理解】

- ・学校は児童の健全育成のために非常に多くの活動を行っているが、それが十分認知されているとは言えないことは問題である。家庭でも我が子とのコミュニケーションを活発にすることに努めていきたいと思うが、同時に学校の取組の正しい理解と保護者や地域からの協力に繋がるよう、様々な手段を用いて、内容の充実したタイムリーな情報発信に努めてほしい。

【安心安全な環境づくり】

- ・学習面や生活面で、児童の中にわき起こる、できない・分からないといった気持ち（いじめ被害なども含めて）を安心して発することのできる環境づくり、保護者も含め、気軽に子供のことで相談できる体制の確立にこれからも努めて欲しい。一方で、地域社会も子どもに優しい環境でありたいと思う。地域でも子ども同士が関わり合えたり、子どもの持つ優しさを育むことができたりするようにしていきたい。

★否定的回答（C・D）があった評価項目や教職員と児童で評価結果の異なる項目について原因を探り、改善できるように今後、取り組んでもらいたい。また、肯定的評価を増やすためではないが、結果的にE回答（わからない）の減少と肯定的評価増となるよう、今後も全職員で協働し双葉東小の教育に当たってほしい。我々も学運協委員として全力で協力していきたい。